



『外に出て星を見よう』

四ツ谷区 荻原 茂之



おおぐま座

この時期、春の星空は、我々がいる「天の川銀河」の外銀河がたくさん見られるのが特徴です。残念ながら肉眼で見られる銀河というのは秋の星座の「アンドロメダ座」にある「M31アンドロメダ銀河」と南半球に行かないと見られない「マゼラン銀河」の2つだけになります。それ以外は天体望遠鏡が必要になりますが、もし天体望遠鏡で「銀河」を捉えることが

できれば、それは数百万光年から数千万光年、望遠鏡の性能にもよりますが、場合によっては数億光年彼方の星の光を自分の目で捉えることができるのです。

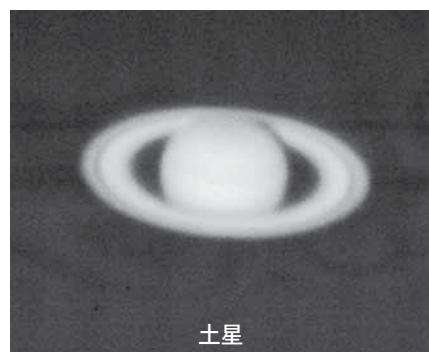
5月になると夏至が近づいて日が長くなります。太陽が沈んでもいつまでも空が明るい「薄暮」の状態が続きます。本当に暗くなるのは9時過ぎになる頃もあります。あまり気にされる方はいないと思いますが、我々のように星を観るのが好きな者にはなかなか厳しい時期で、薄暮の西の低い空に「彗星」でもいようものなら、目をさらのようになり、双眼鏡で探したりすることになります。

いよいよ空が暗くなってきたら南東の空を見上げてみてください。ひととき明るい星が1つ見られると思います。今年はおとめ座のなかに「木星」がいます。すぐそばには一等星の「スピカ」も輝いています。太陽の光を反射し

た木星は、さらに明るいマイナス2・4等星の明るさなのです。「ジュピター」の名に相応しい姿です。

22時を過ぎると東の空から「天の川」が上り始めます。周囲ができるだけ暗く見通しの良いところを選んでいただく必要があります。ですが、深夜には街明かりも落ちてくるのと、天の川も天頂に上ってくるので、気をつけていれば小諸市内からは、まだまだ天の川を見ることができそうです。むしろ天の川を良い条件で本当に楽しめるのは、5月から梅雨入り前までの6月上旬の間ともいえるのです。同じころ「土星」もいて座のなかに見え始めます。

月明かりのない夜を選んで星空を眺めてみてください。



人権同和教育研修講座

◇期日・内容 全4回

回	期 日	テーマ	講 師
1	6月1日(木)	性同一性障害の現状と課題 ～当事者の生き難さ～	LGBT啓発講演家 長岡 春奈さん
2	6月8日(木)	人権感覚の育成①	東信教育事務所 塩田 直人さん
3	6月22日(木)	人権感覚の育成②	
4	6月29日(木)	部落差別について	長野県人権啓発センター 木藤 博さん

◇時 間 午後7時～8時30分 (第1回のみ【開講式】午後6時50分～【講演】午後7時～)

◇場 所 小諸市文化センター 第一講義室

◇受講料 無料

◇対 象 市内在住の方

◆お問い合わせ先 小諸市文化センター ☎ 23-8880